

# SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

## フレンチグラント

【英名】 French grunt

【学名】 *Haemulon flavolineatum*

黄色と銀色の縞模様が特徴的なフレンチグラント。西部大西洋、メキシコ湾、カリブ海の水深約60mより浅い岩礁や砂底に生息し、数十からときには、数百匹になる大きな群れをつくってくらしています。英名の「grunt」とは「うめき声」という意味で、喉の奥にある咽頭歯と呼ばれる歯をこすり合わせて出す音が、うめき声のように聞こえることが名前の由来です。

水槽を観察していると、ときおり2匹が向き合うようにして、口を大きく開く行動が見られます。この行動は体の大きさをアピールして、縄張りや順位を決めるためと考えられています。争いによって、お互いに体を傷つけないようにするための「口喧嘩」なのかもしれません。

(飼育展示係 西村 大樹)



## CONTENTS

### SEA LIFE TOPICS

- 新たな「海藻の林」をつくる

### なぎさNEWS

- アカエイの穴
- なぎさで探そう! こんな生き物「ハマヒルガオ」

### 水族園のもう一つの顔

- たかが「花壇」と思ふなかれ
- 水族園のクワイエットアワー

### TSLP LATEST

Vol.24 No.3 2026

JUNE

通巻

128

# SEA LIFE TOPICS

## 新たな「海藻の林」をつくる

葛西臨海水族園は、2028年のリニューアルオープンに向けて準備を進めています。新しい水族園で展示する生き物の飼育に取り組むため、2026年2月に「海藻の林」水槽の展示変更をおこないました。2月6日から約3週間の展示閉鎖を経て実施した、展示変更の取り組みについてご紹介します。

### 日本の生き物への展示変更

新しい水族園では日本産の大型海藻類の展示を予定しています。当園の「海藻の林」水槽では、これまでジャイアントケルプという大型の海藻をはじめ、北アメリカの西海岸に生息する生き物たちを展示してきました。2024年からは試験的に同水槽で日本産の海藻類も育成してきましたが、北アメリカ産の生き物と混在した展示となっていました。北アメリカ産の生き物と日本産海藻類は生息する水温帯が異なるため、試験にも限りがありました。そこで、海藻類だけでなく魚類や無脊椎動物も含めた全ての生き物の、入れ替えとリセットをおこなうことになりました。

### 生き物を取り出す

まずは生き物を取り出さなくてはなりません。最初に数名が水槽に潜り大型の海藻類を一つ一つ回収し、ヒトデやイソギンチャクのなかまを丁寧に取り出しました。魚類は釣りによる取り出しや潜って手網での捕獲をおこない、最後は水位を下げた大きな網に追い込みながら捕獲しました。どの方法も生き物を傷つけないよう工夫された道具を用いて慎重におこないました。

### 展示再開に向けて

生き物の取り出し後は海水を全て抜き、水槽内環境を可能な限りきれいにすることを目的に2週間ほど真水による循環をおこなった後、再び水を抜き海水に替えました。真水を入れていたため水質を維持するためのろ過機能もリセットされた状態です。安定するまで時間を要するため、水質を測定しながら慎重に生き物を追加しました。また、主役ともいえる海藻類の採集もおこない、再開の準備を進めました。

### 現在の様子

2月26日に展示を再開し、その後も水槽の状態を見極めながら少しずつ生き物を追加していきました。5月現在、アラメやカジメ、ワカメ、アカモクなどの大型海藻類が成長し、波に揺られる様子が見られます。また、数百匹ものクロホシイシモチが一斉に移動する様子やカワハギがせわしなく泳ぎ回りオスがメスにアピールする行動、海藻のあいだから顔を出すウツボの姿なども観察できるようになりました。

海藻類を水槽内で育成するには、光や栄養塩、水流などの環境を整える必要があります。海藻の種類によって適した条件は異なり、安定した環境をつくるには長い時間がかかります。今回の展示変更では、海藻類に適した条件を探りながら飼育環境を整えることも目的としていました。海藻類は陸上植物と同様に光合成をしますが、好ましい光の種類や強さが種によって異なります。そのため、展示種に合わせて調整可能な照明を追加しました。また、養分を吸収したり、老廃物を排出したりするには、海藻の体全体に新鮮な海水をうまく当て続けたいといけません。そこで、既存の造波装置で不足していた水流をカバーするための、水流ポンプを追加しています。これからも継続して水槽内の環境をモニタリングし、状態よく育成できるように努めていきます。

(飼育展示係 戸村 奈実子)



カワハギとクロホシイシモチの群れ



水を抜いて生き物を取り出す

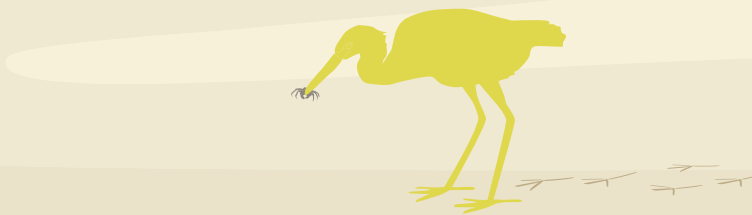


展示再開に向けて海藻を設置する



5月現在の「海藻の林」水槽

# なぎさ NEWS



## アカエイの穴

「西なぎさ」を歩いていて、思いがけない窪みに足を取られそうになったことはありませんか？ それが、直径数十cmほどのすり鉢状の穴だったら、アカエイが掘ったものかもしれません。



干潟に見られるたくさんの穴



潮が引く際に逃げ遅れたと思われるアカエイ

アカエイは干潟でよく見られるエイのなかまで、体長は50cm以上にもなります。体は平たく、浅い波打ち際を泳ぎ回ったり砂の中に隠れたりするのに適した形です。口は腹側にあり、エサを見つけると体全体やヒレを使ってバフバフと砂を巻き上げ、隠れている生き物を掘り出します。この時にすり鉢状の穴ができます。エサとなるのはアサリなどの二枚貝やゴカイ・カニのなかまなどさまざまで、数十cmの深さの巣穴を砂の中に作ってくらすニホスナモグリを食べているという報告もあります。

アカエイの掘った穴を見つけたら、まわりも見渡してみましょう。移動した跡がわかるように、点々といくつもの穴が連なっていることがあります。しかし、アカエイ自体を見かけたらご注意ください。アカエイの尾の付け根には毒針があり、刺されると危険です。稀にアカエイの死骸が打ちあがっていることもありますが、ふれずに少し離れて観察してみてくださいね。（飼育展示係 堀田 桃子）

### なぎさで探そう！ こんな生き物

見つけやすさ ★★★★★

サイズ 葉の大きさ 3cm

見つけるコツ

「西なぎさ」に向かって左側に見えるクロマツの林の奥に、ハマヒルガオの群落が広がっているよ。ポイントは足もと。地面をびっしりおおっている丸い葉が目印だよ。ちょうど今号が出るころにはもも色の花がさいているかも。花の時期は短いから、早めに行くのがおすすめだよ。

## ハマヒルガオ（ヒルガオ科）

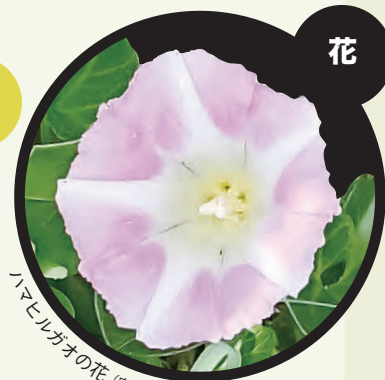
### ■ハマヒルガオはこんな生き物

日本中の砂浜や海岸でみられる植物。葉は丸くて、地面をはうように広がっているよ。「西なぎさ」で見つけたら、葉をよく観察してみよう。つやつやしていてさわるとかたい。厚みがあるかたい葉は、海ならではの強い日差しや潮風から身を守るのに役立っているよ。5月の終わりから6月にかけて、アサガオによく似たもも色の花をさかせるんだ。花がくれたあとにできるタネは、何ヶ月も海にうかんであだよって、新しい場所で芽を出すことができるんだって。これも海辺でくらす工夫だよ。すごいね。（教育普及係 高濱 由美子）



地面にびっしり！

葉



花

ハマヒルガオの花（実物大）

# 水族園 のもう一つの顔

## たかが「花壇」と思うなかれ

水族園には常設で66基、夏から秋の期間はそれに加えて36基、合計102基の花壇・プランターが設置されています。花壇は装飾のイメージが強いのですが、それ以外にも目隠しや暑熱対策、通路の仕切りや人止めなど多くの役割を兼ねています。緑の下の力持ちとして日々活躍してくれています。

そんな花壇に植える植物の種類には毎年頭を悩ませています。植物にはさまざまな形質があり、人に与える印象もさまざまであるため、色や姿のバランス、耐塩性を見て植物を選んでいきます。今年はツボサンゴという、名前にサンゴが入ったカラーリーフや寒色系の花を中心に採用し、水族園のイメージに寄り添う花壇を意識しています。また、花壇そのものに「動き」を持たせる工夫をしています。開花時期をずらして花壇の主役を変えたり、球根を植えて花が咲くまでの経過を見られるようにしたりすることで、時間による変化を観ることができます。

花壇は年に5回、季節に合わせて植え替えています。植え替えずにそのまま残す種類もあるので、何がどう変わったのかにも注目です。ご来園の際は、季節ごとの大きな変化、その日その時の小さな変化に目を向けていただくと嬉しいです。(施設係 佐藤 一貴)



右端の赤い葉のヒューケラ(ツボサンゴ)がアクセントになっています

## TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 3/27 「サンゴ礁の海」水槽でサンゴプロジェクトのサンゴ苗を展示
- 3/31 都立動物園・水族園4園が「博物館」として登録
- 4/7-10 寒冷地潜水訓練を実施
- 4/19 「飼育の日」イベントを実施
- 4/27 「南極3」水槽でアンタークティックスパイニーブランダーフィッシュが産卵
- 5/8 「浮遊生物5」水槽でサルシアクラゲを展示
- 5/8-26 南極条約協議国会議 国内開催記念パネル展を実施
- 5/12 「クワイエットアワー」を実施
- 5/20 「東京湾にもいるこんな生物」水槽でシリアケイカが産卵

## 水族園のクワイエットアワー

クワイエットアワーは、感覚過敏のある方々が安心して過ごせるように、音や光、匂いなどの刺激をできるだけおさえるなど、施設でもうけている静かな時間帯のことで、近頃では、さまざまなお店や施設でおこなわれていますので、聞いたことや経験したことがある方もいるかもしれません。

葛西臨海水族園では、今年の5月から奇数月の第2火曜日の午後に、クワイエットアワーの時間をもうけています。実施に先立ちおこなったのは、音の刺激を減らす試験です。館内すべてのBGMを停止し、モニターや機械の音も可能な限り停止したところ、思った以上に静かになりました。気になったのは、来園された皆さんがどう感じるかということでした。感覚過敏のあるなしに関わらず、当日来園された50名の方にアンケートに協力いただいた結果、意外にも静かな空間を心地よいと感じる方が多いことがわかりました。5月からおこなっている定期的な開催では、音を減らすほか、館内のライトやパネルのまぶしさに配慮した、サンングラスの貸し出しもしています。今後、回数を重ねながら内容を充実させ、多くの方に気楽に来ていただける水族園を目指していきたいと思います。(教育普及係 高濱 由美子)



静かな水族園をお楽しみください

### 編集後記

新しい「海藻の林」水槽がスタートしました。アラメやカジメ、水面近くまで伸びたアカモクが、波にあわせて大きく左右に揺れ、そのまわりをクロホシイシモチが群れになって泳いでいます。晴れた日には太陽の光が水中にすじ状に差し込み、それはとても美しいです。ぜひ、海藻の成長にも注目しながら、展示をお楽しみください。(高濱)



### SEA LIFE NEWS 通巻 128

Vol.24 No.3 2026 JUNE 6月1日発行(次号は2026年8月発行予定)

編集 葛西臨海水族園  
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3  
TEL.03-3869-5152  
www.tokyo-zoo.net/zoo/kasai/

発行 公益財団法人東京動物園協会  
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7  
池之端日殖ビル7階  
TEL.03-3828-2143

